

妊婦中の女性医師の心強い味方

脱着簡単なコート型診療着 マタニティー白衣が特許取得



特許を取得することが決まったマタニティードクターコート

島根大（松江市西川津町）が2011年に、白衣製造業の大東白衣（雲南市大東町）や日昇産業㈱（広島市）と産学連携で開発した、妊娠中の医師が着衣するマタニティードクターコート（白衣）が6月、特許を取得した。特許取得を認知度アップにつなげたいと、日昇産業のインターネット販売網などを使って、医師や薬剤師など医療従事者を対象に売り込みに力を入れる。

島根大など産学連携で開発

研究開発に携わった同大産学連携センター地域医学共同研究部門（出雲市塩冶町）の中村守彦教授によると、近年、全国的に女性医師が増加しているが、女性医師は妊娠・出産を機に離職し、復職しないことが医師不足の一因になっていたという。

妊娠期の急激な体型の変化にも簡単に脱着できる白衣を提供することで、「ストレスの

マタニティードクターコートは、着脱が簡単なコ

ート型の診療着をベースに改良。お腹周りの変化に応じて、両脇のベルトでウエスト調節でき、妊娠初期から臨月まで着ることができる。しわの寄りにくい生地やダブルボタンを採用するなど機能性とデザインを重視した。

緩和やキャリア継続への意欲を保つことにつながる」（中村教授）とする。

この白衣を着用して勤務した経験がある同大医学部の木村かおり助教（36）は「心地よいフィット感があり、非常に動きやすかった」と話している。

本体価格は9千円（税別）で、15年4月までの販売実績は約500着。